

『捷解新語』における文末名詞文について

——朝鮮語を中心に——

福 沢 将 樹

第1節 はじめに

福沢(2015)「『捷解新語』における文法的形態について——文末名詞構文を中心に——」(以下「前稿」)において、中近世日本語の文末名詞構文を取り上げ、朝鮮語と対照させた考察を行った。しかしこの時、日本語テキストにおける文末名詞構文を拾ったのみであり、日本語では当該構文になっていないのに朝鮮語では当該構文になっているものがあるかどうかについては未検討のままであった。そこで本稿は、朝鮮語テキストを対象として調査したものである。

なお、前稿において調査・掲出した用例には、多くの取り落としのあったことが判明した。その中には、「文末名詞」と見なすか否か迷ったものもある。例えば「文末」でなく文中の接続法として先に文が続くもの、名詞が既に形式化したもの、普通の名詞述語文と見なせるものなどである。しかし、それに留まらないレベルの不備もあったため、甚だ恐縮であるが、稿末に補遺を掲げることとする。

第2節 文末名詞

前稿にもふれた通り、現代韓国語において井上／金(1999)は次の(2a)を不自然なものとする¹⁾。(2b)を自然とするのである。これは初級語学でもしばしば取り上げるものである²⁾。

1) ローマナイズは原文のまま(Yale式)。

2) 梅田／村崎(1982:57)・生越(2002)にも同様の指摘のあることを後に知った。

(1) 今日はいい天気だ。

(2a) ? onul-un coh-un nalssi-ta.

今日は いい 天気 だ

(2b) onul-un nalssi-ka coh-ta. (今日は天気がいい)

今日は 天気 が いい

しかし (3) のように、文末名詞構文が言えないわけではない。

(3) 新しい校舎は今年中に完成する予定だ

Say kyosa-nun olhay-an-ulo wanseng-toyl yeyceng-ita.

新 校舎 は 今年 中 で 完成 する 予定 だ³⁾

そこから井上は、(2a) のような「内の関係」の「いい天気だ」構文と、(3) のような「外の関係」の「体言締め文」(角田 1996) とを区別する。現代韓国語では、「いい天気だ」構文は許されず、「体言締め文」のみ許されるとの由である。

一方生越 (2002) は、「内の関係」にある構文のものにも、現代朝鮮語で可能なものがあることを指摘する。次のように「発見」「驚き」で「客観的な描写」「何を話題にしようとするのが、話し手と聞き手の間であらかじめ了解されている」場合である。

(4) きれいな花 (だ) !

cham yeyppu-n kkoch-i-ney

本当にきれいだ-連体 花-だ-気づき⁴⁾

ところで「体言締め文」は新屋 (2014) [初出 1989] において「文末名詞」としてやはり「外の関係」のもののみを対象としていた。一方野田 (2006) は、新屋の例の中に「内の関係」のものも含まれるとし、「外の関係」のものと「内の関係」のものは性格が異なるとしながらも、両方とも「文末名詞」に含めるとする。次のような例である。

(5a) 川田君は素直で朗らかな性格です。

(5b) 川田君は性格が素直で朗らかです。

3) 井上 (2010) の用例、原文ハンゲルを (2a) に合わせ Yale 式で表記した。

4) 生越 (2002) の用例、原文ローマ字、グロスも同論文による。

野田の指摘した例は「側面・部分」を表すものであり、(5b)のように二重主語構文を取ることになる。(2a)もまた一応二重主語構文を取っている。しかしこれらが必然的に二重主語構文を取らなくてはならないかどうかははっきりしない。実際、無題の現象描写文或いは感嘆文として(6)も成立しうる。

(6) いい天気だ。

山田(1908)の「感動喚体」も、必ずしも二重主語構文を取らないようである。(7b)は、特に大主語が陰題になっているとは言い切れない。

(7a) 妙なる笛の音よ。

(7b) 笛の音妙なり。

これらとやや性格の異なったタイプとして井島(2002)の「主語のない名詞述語文」のうちのある種のタイプがある。「比較的長い部分に下接する」「述語名詞は固有名詞もしくは人称代名詞」「その特定の人物は、その時点で感情移入しやすい人物」という顕著な特徴を有するものである。

(8)a. 昔からアンネローゼとキルヒアイスにだけは、嘘をつけない彼だった。(井島(4)

b. 『銀河英雄伝説』二・290)

b. 自分から離婚を口にしてからというもの、実は毎晩泣いている木葉でございました。(井島(5)h, NHK「ほんまもん」ナレーション, 2002.3.22)(2例、傍線井島)

以上、これまでに指摘されてきたものを広く捉えると、次のような類型が知られていることが分かる。

(9)・「体言締め文」の「～予定だ」構文

- ・大主語を有する「今日はいい天気だ」構文
- ・感動喚体の「妙なる笛の音」「きれいな花」構文
- ・「～彼だった」構文

そして、現代韓国語では「今日はいい天気だ」構文が許されないということであった⁵⁾。

しかし前稿で明らかにしたように、『捷解新語』においては、日本語の「今日はいい天気だ」構文に対応する形で朝鮮語でも (10) のような「今日はいい天気だ」構文、(11) のような「妙なる笛の音」構文の用例が少なからず見受けられるのであった。そしてこれは生越 (2002) の指摘するような「発見」「驚き」等の特徴を有しているものに限らない。

- (10) a. けうわわたりさうなくもいきでもあり：一 8 ウ
b. たいせつ^{ぎょ}の御いちやほどに：二 7 オ
c. さかづきとりやうおみれば／いかうようこしめすさ^けで御ざる：三 6 ウ
d. きどくな御ざいかんと^{もうす}申ほどに：三 12 ウ
e. このやうにかたじけなき^{ぎょ}御いちやほどに：三 21 オ
f. これがいちだんなりにくい御しま^うちや：九 9 ウ
- (11) a. さてさて御いんぎんな^てゑんせ^{ママ}きてこッそ御ざれ：八 28 オ
b. おもいのほかの御ち^{もうし}そうと申：九 3 オ

必ずしも「文末」でないものも前稿・本稿は対象としているが、(10) c、f、(11) a のように文末の例も存在する。

前稿では日本語の用例から検索する形で調査したのであった。しかし日本語で「文末名詞」構文が用いられていないものは検索の対象から漏れていた。そこで本稿は朝鮮語から検索する方法をとるものである。

第 3 節 『捷解新語』における文末名詞構文の実態

用例の掲載方針について、前稿にも記したが、明示し忘れた項目もあり、改めて記しておく。

必要に応じハングルはローマ字に転写して掲げる。転写方式は河野六郎 1947 年式及び 1955 年式を参考にした⁶⁾。但し平唇母音 (ㅡ) は (u) として転写し、イウン (ㅇㅇ)

5) 「～彼だった」構文については未詳だが、同様に許されないか、或いは文体として確立していない可能性がある。今後の課題である。

6) 福沢 (2012) では「河野六郎 1955 年式」、福沢 (2015) では「河野六郎 1947 年式」と記したが、正確には共に両者の折衷であり、ここに訂正する。

は区別せず、音節頭は「ㄱ」、音節末は「ㅇ」で転写する。音節の切れ目（ハングル1字1字の切れ目）を「-」で表記する。従って、「-」は形態素境界を表しているのではない。

日本語の仮名は濁点を付す。音注により鼻音で濁音が明示されているものみに濁点を付し、他は疑問例も含め清音字のままとする。但し「ㄹ」(b)は濁音とする。ハ行音は「ㅎ」(h)によって表記されているからである。並書表記によって促音を表したと思われるものは、「ッ」を補う。但し「ㅈ」(jj)は原則促音なしの清音とする。単に破擦音の「ㅈ」を表したと思われるからである。引用の「ㄷ」(ㄷ)も促音なしの清音とする。

その他原文の仮名表記にはなく、ハングル音注によって振り仮名を片仮名で補うことがある。例えば「申ス」のようなものである。

原文の日本語は「を」字を用いず助詞もみな「お」を用いているが、改めない。

原文は現代語表記のように促音・拗音のための小字を用いていないが、小字で翻字する。

その他注を加えることがある。

必要のある場合、形態音韻論的解釈によって書き直したローマ字表記と、グロスを日本語で付す。他書の訳文や辞書から参考になる記述を引用する場合もある。

- ・尊：尊敬語
- ・対格：対格助詞
- ・連体：連体接辞 -n
- ・未来連体：未来連体接辞 -r
- ・用言：形式用言（動詞・形容詞共通）he-
- ・指定：指定詞（コピュラ）-i-
- ・引用終止：引用句に用いられる指定詞終止語尾 -ra
- ・名詞化：用言の名詞化接辞 -m
- ・積文：『捷解新語積文』『三本対照捷解新語 積文・索引・解題篇』京都大学国文学会
- ・福井：福井（2014）
- ・李朝：『李朝語辞典』延世大学校出版部
- ・大辞典：『朝鮮語大辞典 上巻／下巻』角川書店
- ・小学館：『朝鮮語辞典』小学館
- ・室町：『時代別国語大辞典室町時代編』三省堂

頻出する形式名詞

以下のような形式名詞相当の表現は、頻出し、既に文法化が進んでいると見受けられ

る。つまり「文末名詞」というより「文末辞」に近いものである。よって、本稿ではいちいち掲げない。

- ・ -m (名詞化接辞)
- ・ ged · ges (～のようだ、～ものだ等)
- ・ 'iaŋ (～ようだ)
- ・ ju-uum (～はず)
- ・ des-hæ-(～ようだ)
- ・ jur (すべ)
- ・ man (～のみ)
- ・ sbun (～のみ)
- ・ sde-rəm (～ばかり)
- ・ sdi (助辞?)
- ・ ge-sur · ge-si-ni (接続助詞)
- ・ gen-ma-n (ən) (接続助詞)
- ・ 'ir-'i-ni (接続助詞)
- ・ jag-si-mien (接続助詞)
- ・ dei (～とき)
- ・ bdai (～とき)
- ・ dai-ro (～とおり)
- ・ bai (～場合)

これらは、おおよそ日本語訳でも形式名詞や副助詞に反映しているが、そもそも反映しないのが通例 (-r ges を推量「う・よう」のものもある。しかし次のように該当する形式名詞を抜いた例もないではない。

(12) 'en-me-mo-da-'u-'uun-ge-si-ra-nie-gi-sie-nia : 九 4 オ

さぞみなおかしうこ^マッそおもわしられうか

[直訳: さぞ皆笑うものだ (と) お思いになるか]

(13) niem-nie-hæ-sie-'iei-sgē-ji-bu-ri-sir-sbun-'i-'a-ni-ra 七 3 オ

[直訳: ご念慮になりこれまでお使いになるのみでない (と)]

御ねんおいれられこれまで御つかいと申シ

こうした例は、巻の前半 (おおむね巻六まで) にはあまり見受けられず、後半、特に

卷九に集中する感がある。このことについては「実例」節でもう一度考察する。

これ以外で、朝鮮語においては文末名詞であって、日本語において文末名詞の表現ではないものを調査した。加えて文末名詞形式が活用して「文末」ではなく接続表現などになったものも掲出することがある。例えば「名詞+ ちゃほどに」のようなものである。

なお il (こと) は文末名詞として挙げるべきかどうか迷うところである。この語はこれ自体、既に形式的・文法的な意味・用法を獲得しているからである。だから他の文法化した語と同様、本稿では除外しても構わなかった。しかし、念のため掲げることとした。

また、主語があったり、適切な主語を補ってやったりすれば、被修飾名詞として普通の述語文になる場合もあり、個々の用例で判断が難しいものもある。例えば次のような例である。

(14) そのむりゃうわあまりにあわんこと ちゃほどに : 五 29

gu-mo-dan-'uun-ne-mo-ges-di-'a-nin-'ir-'i-'o-ni

(14) の場合、a のような解釈では単なる主述構文の述語を表すだけである。b のような構文として解釈するとき初めて文末名詞構文ということになる。どちらなのかは判断が難しい。

(15) a その六糸^{むりょう}緞は—— [あまりに合わんこと ちゃ]

b [その六糸緞はあまりに合わん] こと ちゃ

結論として、朝鮮語の文末名詞で日本語で文末名詞になっていない例は、ほとんどないけれども、皆無ではないことがわかった。

第 4 節 実例

朝鮮語の文末名詞句が日本語で複合語 1 単語に対応しているもの

(16) mo-da-'en-me-se-'tui-hen-ges-si-ra-hiuŋ-bo-sim-'uur 九 13 オ

moda enme seui-hæ-n ges-i-ra hiuŋ = bo-si-m-uur

皆 いくら 残念-用言-連体 もの-指定-引用終止 欠点=見る-尊-名詞化-対格
おのおのさぞむてうはうものとさぎしみなるお [不調法者と蔑みになるのを]

朝鮮語文で「seuihen ges」(残念なもの) という名詞句を用いて表現されているものが、日本語文では「むちょうはうもの(不調法者)」という複合語を用いて表現されている。これはたまたま朝鮮語では1単語で表すことができなかつたものと推察される。これは容易に理解できるパターンである。

一方、次のような例は、やや不可解である。

朝鮮語の文末名詞が日本語で文末にあらざるものと対応しているもの

- (17) sdo-mar-sem-he-si-nen-jien-cwi-ra/'i-ri-ni-ru-si-nen-'ir-'i-ro-da... : 九 14 ウ
またはなしのあいつにと／かやうにおしらることと ...

「jience」は、『李朝』では「gadarg」と訳す。「gadarg」を『小学館』は次のように記す。

- (18) 1 原因、理由、わけ
2 経緯、わけ、いきさつ、事情、いわく
3 [略]

福井(2014)は「話のわけとしてこうおっしゃること」と訳す。要するに、「(あなた様があのようにおっしゃるのはなぜかというと、)話の(枕として)経緯(の説明)のため(やむを得ず)このように(あのよう)におっしゃったのである」というくらいの意味であろうか。朝鮮語文も日本語文もいまひとつ言葉足らずの感がある。

ともあれ朝鮮語文では指定詞の引用終止の形を取っているものが、日本語文では「～に」という言いさしの形を取っており、また「はなしのあいつ(に)」では「文末名詞構文」という印象が全く感じられない。単なる「名詞句」である。

もし日本語文の表現に合わせて、朝鮮語文でも直訳に近い形を取るのであれば、次のような方策が考えられる。即ち、「あいつに」の後に省略されているとおぼしき述語を補うという方法である。しかし、この方法は、次のような欠点もまた有している。即ち、表現の長さという点では不对応という欠点である。よって、より近い長さに揃えるためには、構文の対応を取らずに意識してしまうという方法をとらざるを得ない。

こうした意識の構文は、既に挙げたように、巻九には散見する。

なぜ巻九では直訳を取らない表現が散見するのであろうか。その理由として、編纂方針からということと、成立事情によるものと、二つの可能性が考えられる。

編纂方針というのは、次のようなことである。本テキストを用いて日本語を学習する学習者は、巻一から順々に学習するだろう。前半では正確に直訳的に対応するテキストが用いられており、そうした直訳型テキストを通して日本語を速習することができる。しかし徐々に能力が向上してくると、朝鮮語に直訳できないような微妙な表現も学ぶ必要が出てきて、またそれを理解することも期待されるようになる。そこで、直訳的な対応を取らなくても、朝鮮語として自然な表現と日本語としてよくある自然な表現とを対照させるテキストを提示することが、上級者には必要になるだろう。

一方成立事情を反映している可能性もある。というのは、なるべく直訳的な朝鮮語文を作った人物と、直訳でなくても自然な朝鮮語文を作った人物とが、巻を分担していたという可能性である。

以上二つの可能性は、いまのところ憶測に過ぎず、傍証があるわけではない。しかし文末名詞に着目して全体を通読した際、気のついたこととして、記しておく次第である。

第5節 前稿の補遺

以下、前稿の補遺を掲げる。項目の番号は前項に揃えた。

3 文末名詞抜き

(3-1) つしまおたしらるやうにと申^{マツ}ッたことぢゃほどに：六 12 オ

對馬島 rer-bde-na-sir-iaŋ-'u-ro-nir-re-si-ni

4 連体形のままで訳したもの（形式名詞）

(4-1) またわしよしんなものぢゃほどに：一 3 オ

(4-2) あまりとはうなく申スことぢゃほどに：一 6 オ

(4-3) 御とも申さいんでわかなわんじぎでわ御ざるが：一 7 オ [事宜～仕儀]

(4-4) ぜんきうにわうしたことぢゃほどに：二 9 オ [前規]

(4-5) ものしらんものどもがさだめてわ^{マツ}ずれてそうしまるしッたものぢゃほどに：二

10 ウ

(4-6) のほりくんだり御たいぎなことで御ざる：三 14 オ

(4-7) たがいにじぶんとねのやうすおも／みあわせもあることぢゃ：四 17 オ [時分と値]

- (4-8) ぜんこうにないことぢゃほどに：四 26 オ [前後]
- (4-9) おうせきかさしられとあることで御ざる：五 7 ウ [仰せ]
- (4-10) たいけいなことで御ざる：五 10 オ
- (4-11) そうならばかどいでにめでたいことと／みないわいまるする：五 14 ウ [門出]
- (4-12) そなたしゅわにほんのかふうお／ゑんてい御しりやつたことぢゃほどに：五 24
ウ [家風 (釈文)。淵底：物事の根底から、一つ一つのことを残すところなく取上げるさま (室町)]
- (4-13) おしらるたうりいちいち御もつともなことで御ざる：五 25 オ
- (4-14) そのむりゃうわあまりにあわんことぢゃほどに：五 29 ウ
- (4-15) こっちよりもいそぎたいものなれども：六 11 ウ [ges の例だが念のため掲げておく]
- (4-16) ゆるりと御やすみなされかすとぞんじつて／申さることでござそ御ざる：七 16
ウ
- (4-17) またわれらちからであのつかいおし⁷⁾ゆうにさばかれんことぢゃほどに：八 7 ウ
[自由に]
- (4-18) むじにここまでついてめでたさたがいにとうぜんによるこびのまえで御ざる：
八 17 ウ
... 'a-rem-da'o-mi-se-re-同前-hi-gis-bun-dei-ro-son-'i-da [喜ばしいところでございます。福井：お喜びの通りでございます⁸⁾]
- (4-19) もっともしんしゃく申シそうなことなれども：九 8 オ
- (4-20) ただしいやしきに申スことなれども：九 10 ウ
- (4-21) かやうにおしらることと：九 14 ウ

5 連体形のままで訳したもの (一般名詞)

- (5-1) 御ねんごろな御つかいでござそ御ざれ：一 2 オ
- (5-2) 御ねんおいつた御つかいでござそ御ざれ：五 20 オ [御念を入った]

7) 京大編影印、音注は z でなく s に見える。森田 (1985: 112) にも指摘がある。

8) 村田索引は dei-roson'ida と解釈するが、福井 (2014) は deiro-son'ida と解釈したようだ。現代の dairo (通り) は『捷解新語』 当時も dairo と表記されており (村田索引・李朝)、福井は従いにくい。なお dei-の文末用法は村田索引によるとこだけである。しかし dei に〈前〉という意味があるわけではないようで (李朝・大辞典)、単に〈時〉〈所〉といった意味で用いられるのが通例であり、対応にやや不審。

(5-3) さくしつわかきあいのふるまいとおしらるるほどに：九三オ

'e-jei-nən-buur-'ui-'iei-hen-振舞-i-ra-ni-ru-si-ni

文献

京都大学文学部国語学国文学研究室（編）（1957）『捷解新語：本文・索引・解題』京都大学国文学会

京都大学文学部国語学国文学研究室（編）（1973）『捷解新語積文』『三本対照 捷解新語：積文・索引・解題篇』京都大学国文学会

大阪外国語大朝鮮語研究室（編）（1986）『朝鮮語大辞典』角川書店

油谷幸利ほか（編）（1993）『朝鮮語辞典』小学館

劉昌惇（1964）『李朝語辞典』延世大学校出版部〔1990年八版〕

室町時代語辞典編修委員会（編）（1994）『時代別国語大辞典室町時代編』三省堂

井島正博（2002）「主語のない名詞述語文」『日本語学』21-15

井上優（2010）「体言締め文と「いい天気だ」構文」『日本語学』29-11

井上優／金河守（1999）「名詞述語の動詞性・形容詞性に関する覚え書——日本語と韓国語の場合——」『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト 研究報告書平成10年度Ⅱ』筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト（特別プロジェクト長原口庄輔）

梅田博之／村崎恭子（1982）「現代朝鮮語の文構造」森岡健二ら（編）『講座日本語学10 外国語との対照Ⅰ』明治書院

生越直樹（2002）「日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方：「きれいな花！」タイプの文を中心に」生越直樹（編）『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会

河野六郎（1979）下中邦彦（編）『河野六郎著作集第1巻：朝鮮語学論文集』平凡社（「朝鮮語」〔初出1955〕及び「朝鮮語ノ羅馬字轉寫案」〔初出1947〕）

新屋映子（2014）『日本語の名詞志向性の研究』ひつじ書房〔当該論文初出1989〕

角田太作（1996）「体言締め文」鈴木泰・角田太作（編）『日本語文法の諸問題——高橋太郎先生古稀記念論文集——』ひつじ書房

野田時寛（2006）「複文研究メモ（7）一文末名詞をめぐって一」『人文研紀要』56

福井玲（2014）「捷解新語初刊本のテキスト分析」『韓国朝鮮文化研究』13

福沢将樹（2012.03）「天草版平家物語と捷解新語——謙讓語を中心に——」『愛知県立大学説林』60

福沢将樹（2015）「『捷解新語』における文法的形態について——文末名詞構文を中心に——」『説林』63

森田武（1985）『室町時代語論攷』三省堂〔当該論文初出1957〕

山田孝雄（1908）『日本文法論』宝文館